

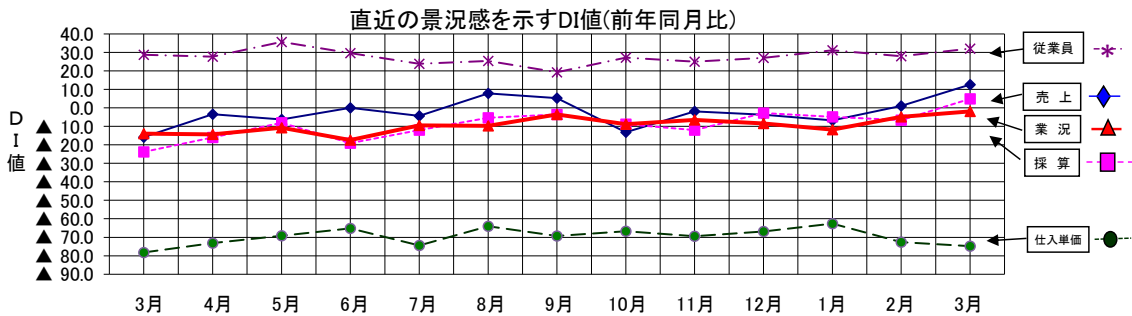
【3月の概要】

直近の景況感は持ち直し
先行きは慎重、コスト負担と人手不足続く

直近の景況感を示すDI値では、「売上DI」が前月の1.0から12.6へと大きく改善し、プラス幅が拡大した。「採算DI」も▲6.7から4.9へ大幅に改善し、約半年ぶりにプラス圏に転じた。「業況DI」も▲4.8から▲1.9へ改善し、マイナス幅が縮小するなど、全体として持ち直しの動きがみられる。一方、「仕入単価DI」は▲72.6から▲74.8へ悪化し、仕入コストの負担感が強まっている。「従業員DI」は27.9から32.0へ上昇し、人手不足感が再び強まった。

向こう3か月間の先行き見通しでは、「売上DI」が1.0から▲3.9へ、「採算DI」が▲7.7から▲8.7へ、「業況DI」が▲8.7から▲11.7へとそれぞれ前月を下回り、先行きについては慎重な見方が広がっている。「仕入単価DI」も▲53.9から▲60.2へ悪化しており、コスト負担への警戒感が続いている。「従業員DI」は28.9から29.1へとわずかに上昇し、人手不足の状況は継続している。

コメントでは、原材料価格の高騰や資材価格の上昇などコスト面の負担を指摘する声が多くみられた。また、中東情勢の緊迫化による原油価格や資材価格への影響を懸念する声もみられた。一方で、年度末需要や人流の増加に期待する声もあり、先行きについては期待と不透明感が入り混じる状況となっている。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数: Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)
※従業員=(不足)-(過剰)

	2025年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2026年 3月
◆ 売上	▲ 15.8	▲ 3.4	▲ 6.3	0.0	▲ 4.3	7.9	5.3	▲ 13.2	▲ 1.9	▲ 3.7	▲ 6.8	1.0	▲ 12.6
■ 採算	▲ 23.8	▲ 16.0	▲ 8.0	▲ 19.1	▲ 12.0	▲ 5.3	▲ 3.5	▲ 8.8	▲ 12.0	▲ 2.8	▲ 4.9	▲ 6.7	▲ 4.9
▲ 業況	▲ 13.9	▲ 14.3	▲ 10.7	▲ 17.4	▲ 9.4	▲ 9.7	▲ 3.5	▲ 8.8	▲ 6.5	▲ 8.4	▲ 11.7	▲ 4.8	▲ 1.9
● 仕入単価	▲ 78.2	▲ 73.1	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 74.4	▲ 64.0	▲ 69.3	▲ 66.7	▲ 69.4	▲ 66.8	▲ 62.6	▲ 72.6	▲ 74.8
---*--- 従業員	28.7	27.7	35.7	29.6	23.9	25.4	19.3	27.2	25.0	27.1	31.1	27.9	32.0

- ・前月比でプラス幅が増加(改善)したDI値: 売上+11.6ポイント
- ・前月比でマイナス幅が減少(改善)したDI値: 採算+11.6ポイント、業況+2.9ポイント
- ・前月比でマイナス幅が増加(悪化)したDI値: 仕入単価▲2.2ポイント
- ・前月比でプラス幅が増加(悪化)したDI値: 従業員+4.1ポイント(人手不足感が強まった)

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
1月回答	2.9	▲ 2.9	▲ 5.8	▲ 39.8	30.1
2月回答	1.0	▲ 7.7	▲ 8.7	▲ 53.9	28.9
3月回答	▲ 3.9	▲ 8.7	▲ 11.7	▲ 60.2	29.1

- ・前月比で見通しが悪化したDI値: 売上▲4.9ポイント、採算▲1.0ポイント、業況▲3.0ポイント
仕入単価▲6.3ポイント、従業員+0.2(人手不足感が強まった)

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電力メンテナンス	人材不足への対応として求人費用の増加や既存社員の賃上げを行っている。加えて材料価格の高騰が収益を圧迫している。今後、アメリカによるイラン攻撃の影響が出ないか懸念している。
	総合建設	中東情勢不安に伴う資材価格の上昇や株価の乱高下、不動産市価の高騰が続き、事業コストや金利(TIBOR)の上昇が進んでいる。さらに、取適法への対応などもあり、会社経営への影響が懸念される。
卸売業	水産物	原材料価格の高騰が続くなか、価格転嫁を受け入れない取引先への対応に苦慮している。
小売業	自動車販売	車両本体の高額化に加え、部品や溶剤の価格高騰が続いている。その影響で顧客への請求額も上昇しているが、作業工賃の見直しが進まず、価格転嫁が難しい状況となっている。
サービス業	ソフトウェア開発	昨年度と比べ売上・利益ともに好調である。4月以降の向こう3か月は見通しが立っているものの、その先は例年と比べ不透明な状況にある。
	貨物輸送	4月からの軽油暫定税率廃止に期待していたが、アメリカ・イスラエルとイランの紛争激化により、今後の原油価格上昇が懸念されており、動向を見守りたい。
	タクシー	物価高の継続や衆院選後の政局、イラン攻撃などが株価に影響しているためか、市場に落ち着きを感じられない。一方、移動時期である当月の人流増加には期待している。

※本コメントは、調査結果の一部を編集・要約したものです。内容の趣旨を損なわない範囲で表現の調整を行っています。

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 3月分 各業界からのコメント

建設業
人材不足を解消するため求人にお金を掛けたり、それに伴い既存の社員の賃金を上げたりしている。又材料等の価格も高騰しており収益を圧迫している。又、今後アメリカによるイラン攻撃の影響が出なければいいのですが。
2月13日に2025年度本決算公表。2月25日に役員人事（予定）公表。資材高騰は安定しているものの、労務単価上昇の動向を注視。4月からの白ナンバートラックの荷主責任の影響も中止している。
中東情勢不安に伴う資材価格の上昇、株価変動（乱高下）、不動産市価の高騰が続く、事業コスト上昇、金利上昇（TIBOR、日々上昇）一方取適法への対応等、会社経営に悪い影響がありうる
イランのホルムズ海峡の封鎖などあった場合は、仕入れ単価に関係してくると思うがわからない。
製造業
トータルで仕事量が全体的に薄い。もう少し良くなって欲しい。新潟市製造業頑張っていきましょう。弊社工場外壁等かなりいたみが激しい。工事しないのだが、補助金があるとありがたい。
年度末は相変わらず忙しいが新年度はどうなるのかと今から悩ましい。
卸売業
原材料価格の高騰が続くが断固として価格転嫁を拒否する取引先に苦慮。
イラン戦争の影響は尋常ないと思う
小売業
イラク戦争による影響が心配です。
やっと、パートさん1名増員できました。
車両本体の高額化、部品、溶剤の高騰がとまらない。そのためお客さまへの請求額も高くなっており、作業工賃の見直しが出来ておらず価格転嫁が難しくなっている
サービス業
昨年度と比較すると売上、利益共に好調ではある。4月以降の向こう3カ月は先行きが見えているが、その先が例年と比べると不透明な状況となっている。
年度末となり駆け込みの受注も予想されるため、現在受けている業務は効率よくこなし備えたい。
人員は過剰なほどだが、それぞれが一日も早く技術を身に付け売り上げに貢献できるよう指導と育成をしていきたい。
テナントの撤退
卒業、入学シーズン、そして母の日に向けてお花の需要が増える見込みです！
4月からの軽油暫定税率廃止に期待していたが、アメリカ・イスラエルとイランの紛争激化により、今後の原油価格上昇が懸念される事態となり、動静を見守りたい。
2026年度予算決定遅延の影響より新年度案件の発注遅延が予想されます。同時に弊社対応案件のずれ込みが生じ新年度に終了する既存案件に対し新規案件数が伴わずに売上減に転ずる見通しです。
物価高の継続、衆院選挙後の攻防、イラン攻撃などが株価に影響を齎している事が原因なのか市場に落ち着きを感じられない
移動時期である当月の人流に期待している
2月、3月は雪の影響が少なかったせいか、前年比を大幅に上回っている。
しかし、ただでさえコストの上昇が著しいのに、中東での戦争が原油等の物流に影響し石油と石油関連製品の価格上昇や品不足が起きる。今後1ヶ月くらいで取まらないと、これから3ヶ月、6ヶ月後の日本経済に大きな打撃が生じる。来るべき危機に対応すべく準備が必要と思われる。
例年2月の輸送実績は一年で一番少ないことから、前月との比較では減収となっている。しかし、3月以降は今月と比較して増収に転ずる傾向にある。また、本年の2月は運賃の値上げ効果から前年との比較で増収となった。